Via Latina 22

2020年11月　294号

総本部よりのお知らせ－マリア会

日本地区での初誓願式

左より：マリア会のPhero Le Van Sinh 士、
Gioan Baotixita Le Ngoc Doan士、Anton Ham Van Cau士

2020年10月2日（金）、日本地区の3名のベトナム人修練者、Gioan Baotixita（洗礼者ヨハネ）レ・ゴック・ドアン、Phero（ペトロ)レ・ヴァン・シン、 そしてAnton（アントニオ）ハム・ヴァン・カゥが初誓願を宣立し、マリア会の修道士となりました。初誓願式は東京のシャミナード修道院の聖堂で行われ、マリア会日本地区長、市瀬幸一師の司式で執り行われました。

出席者はマリアニスト家族の各枝からの次の代表者でした：FMI管区長シスター墨田富美子、 MLC会長平田潔氏、AM代表者田中正江女史、そしてシャミナード共同体と暁星修道院のメンバー。また、光星修道院、明星修道院、そして海星修道院の共同体からの代表者。

それは荘厳で大きな喜びの1日となりました。なぜなら、それは日本地区で21年ぶりの初誓願式であったからです。

誓願式のこの日はマリア会創立の記念日に重なり、これら新たな3名の修道士たちは最初の修道士たちと同じ精神で初誓願を宣立しました。彼らは2012年ホーチミンでマリアニスト共同体生活を始め、2014年4月来日し、それから東京の修練院でその養成期を終えました。

トーゴ地区、コートジボワール従属地区、USA管区での終生誓願式

左より：マリア会のJustin Agbo-Hola Ayena士、
Jonas Hodabalo Kpatcha師（地区長）とJules Amouze Prenam Along士

2020年10月3日（土）、マリア会およびトーゴ地区は2名のブラザーの終生誓願式を迎えるお恵みと喜びに与りました：Jules Amouzè Prénam Along士とJustin Agbo-Hola Kodjo Ayenaです。トーゴ地区長Jonas Kpatcha師が誓願を受け入れました。

ソコデ教区、Célestin-Marie Gaoua司教がミサ聖祭を司式しました。誓願式はソトゥブアの聖フランシスコ・ザビエル小教区で、マリアニスト家族の4つの枝の代表者、両親、友人たち、知人、そしてマリアニスト事業の関係者からなる出席者の参列のもとに行われました。

地区長のJonas師はその説教で、信者たちに対し、様々な必要性を抱えているこれら新たな終生誓願者のために祈りを倍加してくださるよう熱心に勧められました。

また、今回はトーゴ地区にとってソコデ教区に於けるマリア会存在25周年（1995-2020年）を祝う機会でもありました。この祈りに満ちた素晴らしい式典の後、喜びの軽食が供されました。

左より：マリア会のNarcisse Agoua Anoman士、
Romeo Ahouo Angba士、Joseph Ebah N'guessan Allou士

2020年10月10日（土）、コートジャーボール従属地区のブラザー、Narcisse Aqoua Anoman士、Roméo Ahouo Angba士、そしてJoseph Ebah N'guessan Allou士の3名がマリア会 （コートジャーボールト従属地区）における終生誓願を宣立しました。この誓願式はコートジャーボールのアビジャンにある同国のマリア聖地で行われ、ミサ聖祭はヨプゴン教区の Jean Salomon Lezoutier司教によって司式されました。

この式典の終わりに、アビジャンにある同国のマリア聖地のマリアニスト居住地の庭園で、心のこもった兄弟的分かち合いがなされました。この日は、世界マリアニスト祈りの日のため集まっていた全マリアニスト家族とともに和気合いあいの雰囲気でした。

左より：マリア会のOscar Vasquez 師（管区長）、
Allen Agpaoa Pacquing士、Timothy Kenney師（霊生部長）

2020年10月3日、ブラザーAllen Agpaoa Pacquingはテキサス、サン アントニオにある聖マリア大学のキャンパスのガダループ聖堂で終生誓願を宣立しました。USA管区長、Oscar Vasquez師がミサ聖祭を司式し、誓願を受け入れました。霊生部長、Tim Kenney 師が共同

司式をし、終生誓願を宣立するAllen士を呼び出す役割を務めました。

コロナウイルス感染拡大に対応して取られた用心のため、式典への実際の参加者は、マスクを付けソシアルデイスタンスを守った友人たちとマリアニスト共同体メンバー45名に限定されました。しかしながら、誓願式は、全世界のマリアニスト家族メンバーと友人たちがバーチャルに誓願式に参列出来るよう、ライブで配信されました。

50歳のAllen Pacquing士は敬虔なフィリピン・アメリカ人家庭に生まれ、ハワイのホノルルで成長しました。彼は2003年にカリフォルニアのサンタクララ大学で司牧の修士号を収得しました。

2013年に、Allenは自問自答しました：“私の人生のこの段階で、私が修練院に入ると誰が予想したでしょうか？私自身もそうでした、しかし神は他のご計画を持っていました。私はただ神の呼びかけに耳を傾け、それに心を開く必要があっただけです。

“The Division of Student Development” で奉仕する知識と意欲を持って、彼は聖マリア大学で“Community Engagement, Marianist Student Initiatives” の準部門長の役を引き受けました。

コートジボワールでの司祭叙階式

左より：マリア会のKoutouan Eugene Adingra師、Alexis Touabli Youlo司教、
Kouakou Elie Oka師とKouame Georges Gbeze師（従属地区長）

2020年10月24日（土）、コートジャーボール従属地区とフランス管区はアビジャンでマリア会員Kouakou Elie Okaの司祭叙階を喜びの中に祝いました。叙階式は、Elie士がローマの国際神学校からコートジャーボールに戻って以来、共同体で生活し助祭として任務に就いていた同国のマリア聖地で行われました。

司祭叙階の按手は、従属地区長Georges Gbeze師、マリア会の多くのメンバー、マリアニスト家族の他の枝、そしてElie神父の家族と友人たちの出席の下、アグボヴィル教区のAlexis Touabli Youlo司教によって行われました。彼の叙階に先立ち、Alexis司教はその説教で、一つの神秘としての、すなわち私たち一人ひとりの兄弟姉妹である人々の中におられるキリストのいのちを十全に生きるようにとの呼びかけとしての司祭職について強調しました。この叙階式は、自分の共同体と信者たちへの奉仕に神が一人の修道者を召され、そして彼がその召命を快諾したという、素晴らしい式典でした。

アビジャンで生まれたElie神父は、マリア会が運営するアビジャンの聖ヨハネ・ボスコ学園を卒業しました。マリア会に入り初期養成期を終わってから、彼は共同体メンバーとして奉仕し、その後アビジャンの郊外にある霊生センター、“シャミナード村”で所長を務めました。後に、彼はローマのマリアニスト国際神学校で勉強するため一時コートジャーボールを離れ、2020年6月に叙階への準備を終了しました。

私たちはElie神父にお祝いを申しあげ、彼が司祭職を始めるにあたり祈りを約束します。彼は同じマリア聖地に派遣され、そこでマリアニスト共同体メンバーと共に司牧の任務と秘跡を執行する務めに就きます。

マリア会の新たな総書記の任命

総長André Fétis 師はマリア会の新らたな総書記の任命を発表するのを喜びとします。私たちはトーゴ地区のKodjo Frédéric Bini士がこの任命を快く受諾されたことを感謝します。彼はMichael J. McAward士からこの仕事を引き継ぎます。McAward士はこの役目を2018年9月から今まで代理として果たしてきました。この任命は2020年11月15日から発効します。

Frederic士は1971年トーゴのゾッグベガン/ワワで生まれました。1997年に高校卒業後、彼はカラで前修練期に入りました。2000年に彼はマリア会の初誓願を宣立しました。2004年に、アビジャンの学生修道院での養成期を終了して、彼はカラの”福者シャミナード“共同体に配属されました。そこで、彼は共同体メンバーとして12年間過ごし、そのうち9年間はシャミナード・カレッジの校長を務めました。

2019年に、まだソトゥブアの聖ヨゼフ共同体の院長で、地区の教育部長の任にあったFrederic士は、ローマのマリアニスト国際シャミナード神学校の副校長の任務を引き受けました。従って、彼はこの副校長の任務を継続しつつ、これに総書記の任務を加えることになります。

総書記の部門は総本部の中で重要な奉仕です。それは総長評議員会とマリア会メンバーの間の連絡の中心をなしており、そしてそれは記録の保管から発表まで数々の責任を取り扱います。総書記はさらにマリア会の公証人でもあります。総書記は大変有能で献身的な信徒協働者のチームによって補佐されており、彼らは長年に渡り書記局の職務に重要な役目を果たしてきました。

私たちは、他の責務に加え、数年に渡りこの役目に喜んで尽されたMichael士に感謝します。同様に、私たちはFrederic士を歓迎し、総本部とマリア会への更なる奉仕に対して寛大な心で応えてくださったことに感謝します。

東アフリカ地区への総長評議員会の視察訪問

総長評議員会のメンバー4名は東アフリカ地区の視察旅行から丁度戻ったところです。視察は10月9日から始りローマに戻った10月28日に終わりました。地区本部とそのメンバーの素早い準備と、こだわりのない柔軟さのお蔭で、比較的短い事前通達でこの視察を首尾よく計画することが出来ました。この視察はコロナ感染拡大のためにキャンセルされたUSA管区の視察計画に代わるものでした。それでも、これは様々な国を通して施行される規制を考慮すると、計画すること、そこに到着出来ることさえ難しい視察旅行でした。

ごミサ　ナイロビでの地区集会のおりに

この地区は3つの異なる国に拡がっています。ケニア、ザンビア、そしてマラウイです。COVID-19によってもたらされた複雑な状況の故に、この訪問視察にマラウイを含めることが出来ませんでした。そう遠くない将来、評議員会はマラウイを視察出来るよう期待しています。こうして、André師とMichael士が最初の2週間、ケニアを廻り、一方その間Pablo師とMaximin士は直接ザンビアに行きました。各々のペアーはこれらの国の地区共同体と活動を視察し、最後の週に、彼らの修練院と学生修道院を視察し、訪問視察の締め括りを行うためナイロビで合流しました。

ケニア全国で、地区のマリア会修道者はナイロビ、モンバサ、そしてウクンダで幾つかの教育施設を運営しています。それらの１つであるナザレの聖母小学校はムクルスラム街の幼稚園児と小学生に正規の教育を行っています。この3つの都市の他の幾つかのセンターは、正規、非正規両方で技術トレーニングを行っています。モンバサでは、マリア会は聖マーチン・デ・ポレス小教区を司牧しています。他にも、マリア会によって推進されている社会正義の仕事があります。これらの活動の全ては熱心な信徒の協働者の助けを享受しており、そして敬意と献身をもって貧しい人々のために尽しています。ケニアは地区の3つの養成共同体の中2つを受け持っています。現在、学生修道院は22名の修道士を抱えており、その殆どが東アフリカから来ていますが、数名はアフリカの他の行政単位から来ています。修練院には2名の修練者がいます。それに加え、モンバサとナイロビの両方に、マリアニスト信徒共同体の幾つかの活発なグループがあります。

世界マリアニスト祈りの日　ザンビアのマテロ・ボイズ校で

ザンビアでは、主要な活動は首都ルサカにある評判高いMatero Boys校です。数十年来、マリアニストはこの名声ある学校でしっかりとした教育を行ってきました。信徒マリアニスト共同体はやはりここでも活動的です。ケニア以外の地区養成共同体としては、このルサカにある前修練期の養成共同体が唯一のものです。

マラウイでは、この地区はまたカロンガのシャミナード中学校と技術養成所M.I.R.A.C.L.Eで長い間活動してきました。首都リロングウェに新たに創設されたマリアニストシャミナード中学校があります。総長評議員会は出来るだけ早くこれらの活動を訪問したいと思っています。

東アフリカ地区は、全体的に会員は若く，非常に“生きいき“としています。彼らは宣教と共同体生活への強い献身意識を持っています。またそれぞれの養成段階にかなりの数の修道

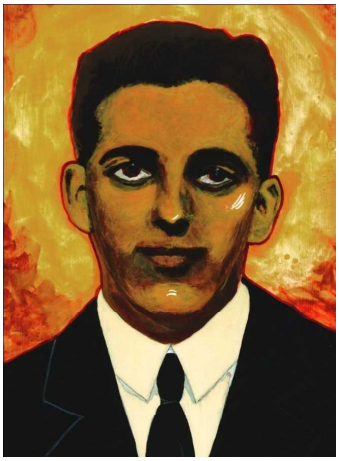
者がいますます。従って将来に向け大きな希望があります！しかしまた、多くの課題もあります。これらの課題の中には、経済的なもの、人材と資源の活用に係るものがあります。勿論、召命司牧活動は常に関心事であり、注意を払う必要がないと考えることはできません。

総長評議員会は彼らが余裕を持って歓迎し、地区内でのマリアニスト生活と宣教活動を体験する機会を持てた事に対し感謝します。彼らが恵み豊かな聖母の導きと守護の下に宣教とマリアニスト生活を深めそこで粘り強く継続するよう祈りましょう。

スペインのマリアニスト殉教者：Bro. Sabino Ayastui, SM

11月6日に、スペインカトリック教会は1931-1939年のスペイン内戦の間に起こった宗教迫害の1891名の殉教者の記念を典礼的に祝います。この日に、マリア会の典礼で私たちが4名のマリアニスト殉教者たち：Miguel Léibar, Joaquín Ochoa, Sabino Ayastui,そしてFlorencio Arnaizの記念を祝うのはそのためです。彼らは2007年10月28日に列福されました。

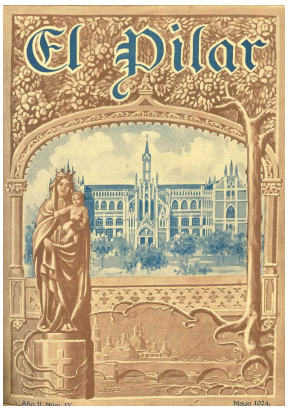
今月、私たちはこれら4名の修道士の中の一人、Sabino Ayastuiの生涯に焦点を当てたいと思います。Sabinoは1911年12月29日、スペインのアレチャバレタで生まれました。彼は11歳でエスコリアツァの志願院に入り、そしてエロリオで修練期を過ごし、そこで1928年9月5日、彼は初誓願を宣立しました。



Sabinoは深い宗教的感受性をもった若者でしたが、同時に、一人の人間として成長し成熟する必要がありました。彼の修練期養成者が彼について作成した報告書で次のように言っています：≪難しい性格、向う見ずで反抗的。しかしながら、彼はかなりの善意を持っているように見える。彼は今自分のパーソナリティの中に激しい活力と共にある激情を手なずける努力が必要です。私たちは彼がその欠点と戦い続け、よい修道士になることを期待します≫。彼は学生修道者としての数年をビトリアとセゴビアで過ごしました。

Sabinoには難しい時期がありました。それは、彼の霊的指導者が彼に修道生活から去るよう助言したらしいのです。しかし、彼は自分の召命を再確認しました：≪マリア会を去るよりもむしろ死んだ方が良い≫。1931年に学生修道者の期間を終えてから、Sabinoはエスコリアツァの志願院とサンセバスチャンの学校で教育者として働きました。彼についての報告は初期養成の年月において彼が成熟したことを強調しています。その当時、スペインでの宗教迫害は増々激しくなっていました。1933年に、終生誓願を希望して送った最初の手紙に彼は次のように書いています：≪スペインの修道会が経験している同じ難しい状況が、より完全な方法でマリア会に加

わるよう私の背中を押しています。迫害は私を尻込みさせません、なぜなら神がそれをお許しになっており、私の魂の益のためにそれに耐える恵みを私に与えてくださるからです。≫

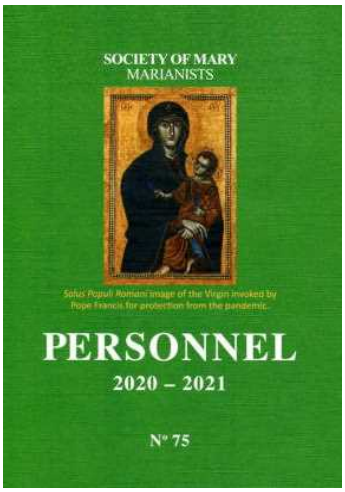


1934年9月2日に、彼は終生誓願を宣立し、翌年マドリードの“柱の聖母”学院に赴任しました。当時の宗教迫害という状況の中で、一つの≪殉教者の霊性≫がスペインの修道者たちの間に広がり始めました。Sabinoは毎日唱えていた殉教についての一篇の祈りを持っていました。1936年7月に、内戦を引き起こすことになる軍の蜂起が起こりました。学校は閉鎖され、共同体は散り散りにならねばならず，修道者は知り合った家族に隠れ家を探さなければなりませんでした。ある人々は修道者を密告し、反宗教一派は彼らを追跡しました。

1936年9月13日に、反宗教一派の兵士たちはSabinoが他の修道者たちと避難していたアパートを見つけ、そのアパートにいた修道者を全員逮捕しました。兵士たちはこれらの修道者に拷問を加えた後、1936年9月14日早朝、マドリードの郊外で銃殺しました。

いつの日か福者Sabinoが列聖されるよう、彼の執り成しによるお恵みを祈願しましょう。

2020－2021年国際名簿　間もなく到着予定!



国際名簿の今年度版が印刷され、全ての行政単位の本部に送付されました。それらの名簿の到着期日はそれぞれの郵便配達事情によります。感染拡大による事態が長期の遅れの要因とならないで、間もなく届くようにと願っています。

これらコピーが届いたなら、いつものように行政単位内部に配布してください。

カリスマ家族の祈り

カリスマ家族は、異なった形と色彩の多様な要素を集めることによって出来た、ステンドグラスの窓の様なものです。一つひとつの構成部分はそれ自身で十分な価値を持っており、そのすべての輝きを放つことで、素晴らしい価値を全体に与え、その一致のうちに教会の美しさを写しだしています。

この交わりと相互依存の精神において、11月1日、私たちが諸聖人の祝日を祝うこの日に、私たちは祈りの中で一つになり、神である御父に私たちのカリスマ家族を委ねます。私たちの創立者たちは完全な交わりの場所である天国でお祝いしています。全てのカリスマが教会と世界のための希望の光となるよう、主がその英知で私たちを祝福されますように。

Prayer of Charismatic Families

We thank You, Holy Father, for calling us to live the spirituality of communion and dialogue, in and among the Charismatic Families, where we find ourselves, sisters and brothers, in the desire to walk together, with a contemplative attitude before Your wisdom and thanking You for the common gift of vocation and mission.

We ask you Lord Jesus, through the intercession of Mary Most Holy, Mother of the Charismatic Families, the grace to bear witness to our faith in the continuous service of charity for the building of the Kingdom of God along the path begun by the holy founders and foundresses and, like the Holy Family of Nazareth, to reveal the immense mystery of the gift of your love, the generator of life and hope.

Come, Holy Spirit, and grant us the grace to each of our families to be a mutual gift, certain support at the hour of sorrow, strength in prayer, sharing the deep joy of living for the Church, for humanity, for universal brotherhood, for the unity that Jesus asked of the Father.

May our Holy Founders and Foundresses help us to continue to nourish the fruitfulness of the Charism, guard us in fidelity, make us grow in faith, make us witnesses of Love and Holiness.
Amen.

最近の総本部通信

- **訃 報：29－32号**
- **9月23日：***拡大総長評議員会*、マリア会総長André-Joseph Fétis師から
  ゾーンの議長へ通達
- **10月5日：***"Fratelli Tutti" 教皇フランシスコの回勅をマリア会員全てに送付*
- **10月7日：***教育の国際協定*、３か国語で教育局長E. Maximin Magnan士から
  各教育部長あて送付

総本部の日程

- **11月7～8日：**マリアニスト世界家族評議会のオンライン会議
- **11月19～20日：**拡大総長評議員会のオンライン会議
- **11月25～27日：**André-Joseph Fétis総長がUSGのオンライン会議に出席
- **11月25日：**霊生局長 Pablo Rambaud師が"Patronato SM"（Ediciones SM）
  のオンライン会議に参加

メールアドレス変更

William Bolts士（US）：bbolts@gmail.com
Magdaleno Ceballos士（US）：mceballos1@udayton.com
James Facette士（US）：jimface33@gmail.com